

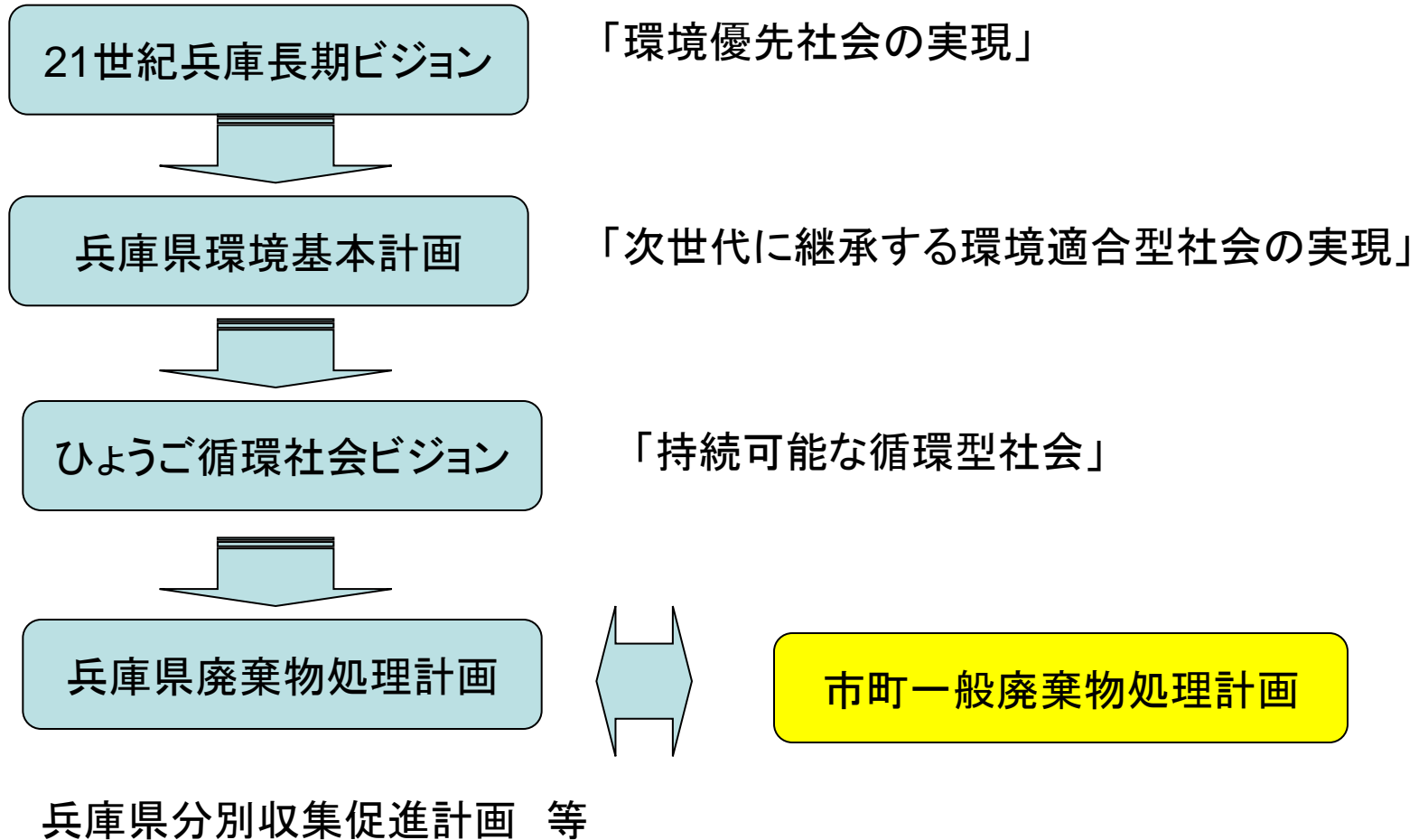
兵庫県廃棄物処理計画の進捗状況

兵庫県環境整備課

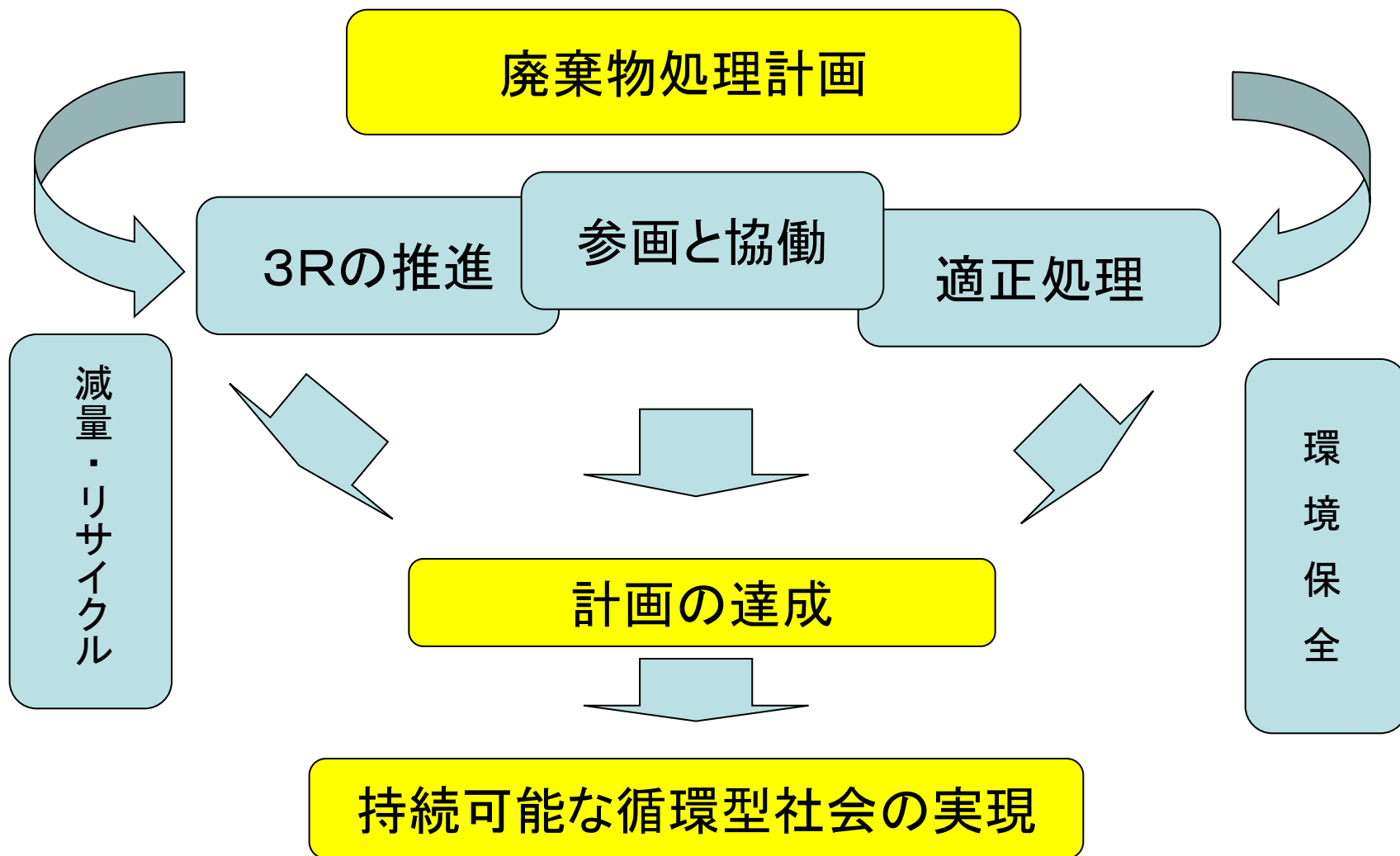
都道府県廃棄物処理計画

- 廃棄物の発生量及び処理量の見込み
- 減量、その他適正な処理に関する基本事項
 - 廃棄物の排出量、再生利用量等の現状
 - 廃棄物の排出の抑制、再生利用等適正処理の目標と目標達成に必要な方策
- 一般廃棄物の適正な処理を確保するために必要な体制
- 産業廃棄物の処理施設の整備に関する事項

廃棄物処理計画の位置づけ



計画のイメージ

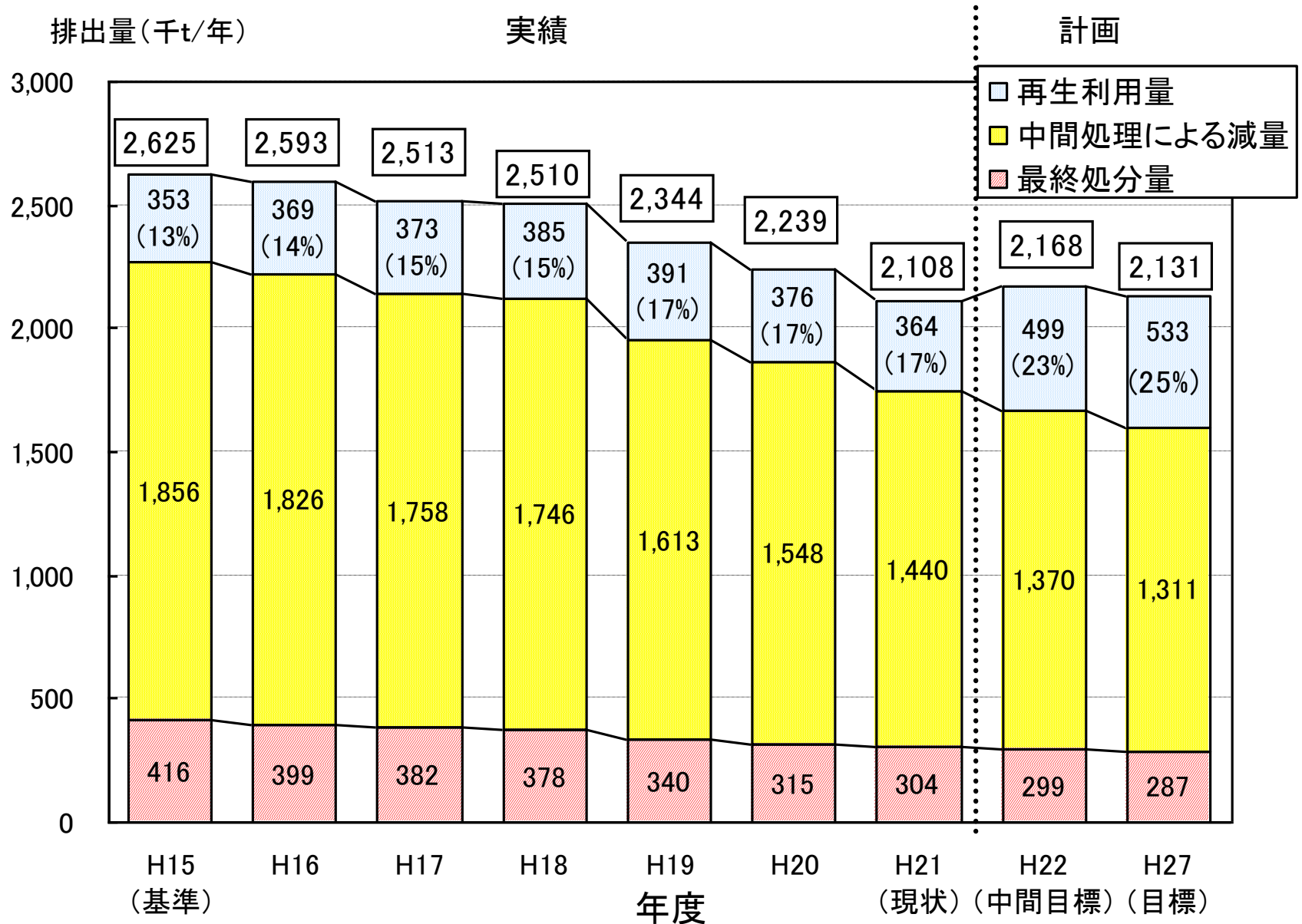


3Rの推進

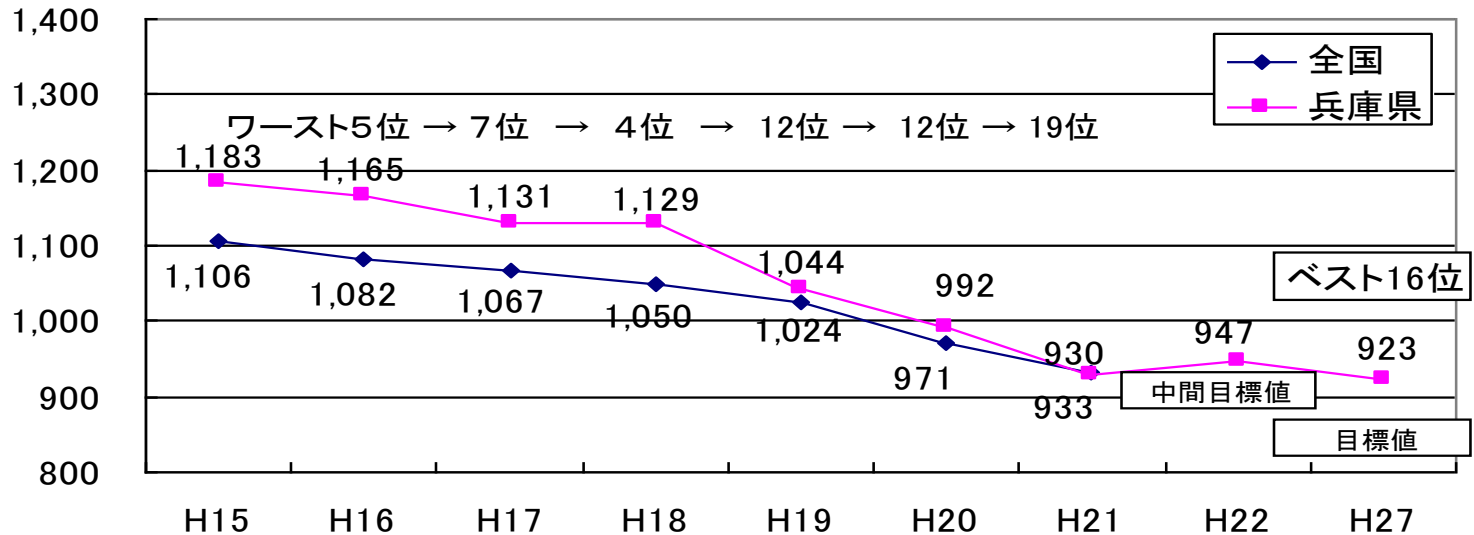
- Reduce・・・発生抑制
 - Reuse・・・再使用
 - Recycle・・・再資源化
- } 3R

「もったいない」の精神に基づいた循環型社会の形成を目指し、3R生活を実践できるよう、県民・事業者等への意識啓発を図る。

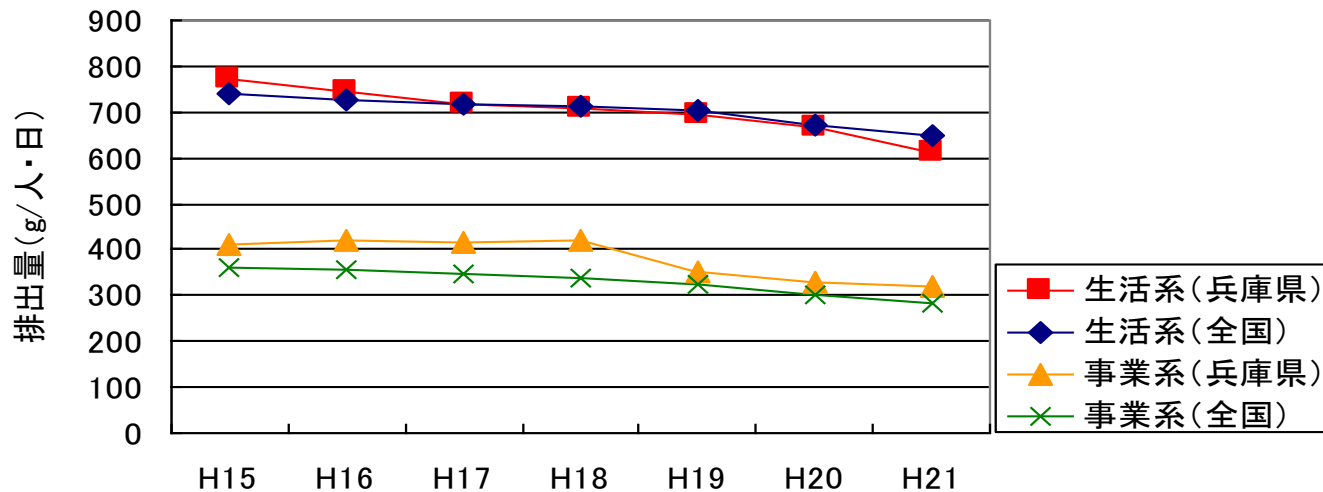
ごみ総排出量(兵庫県)



ごみ排出量(1人1日あたりの排出量)



生活系・事業系区分



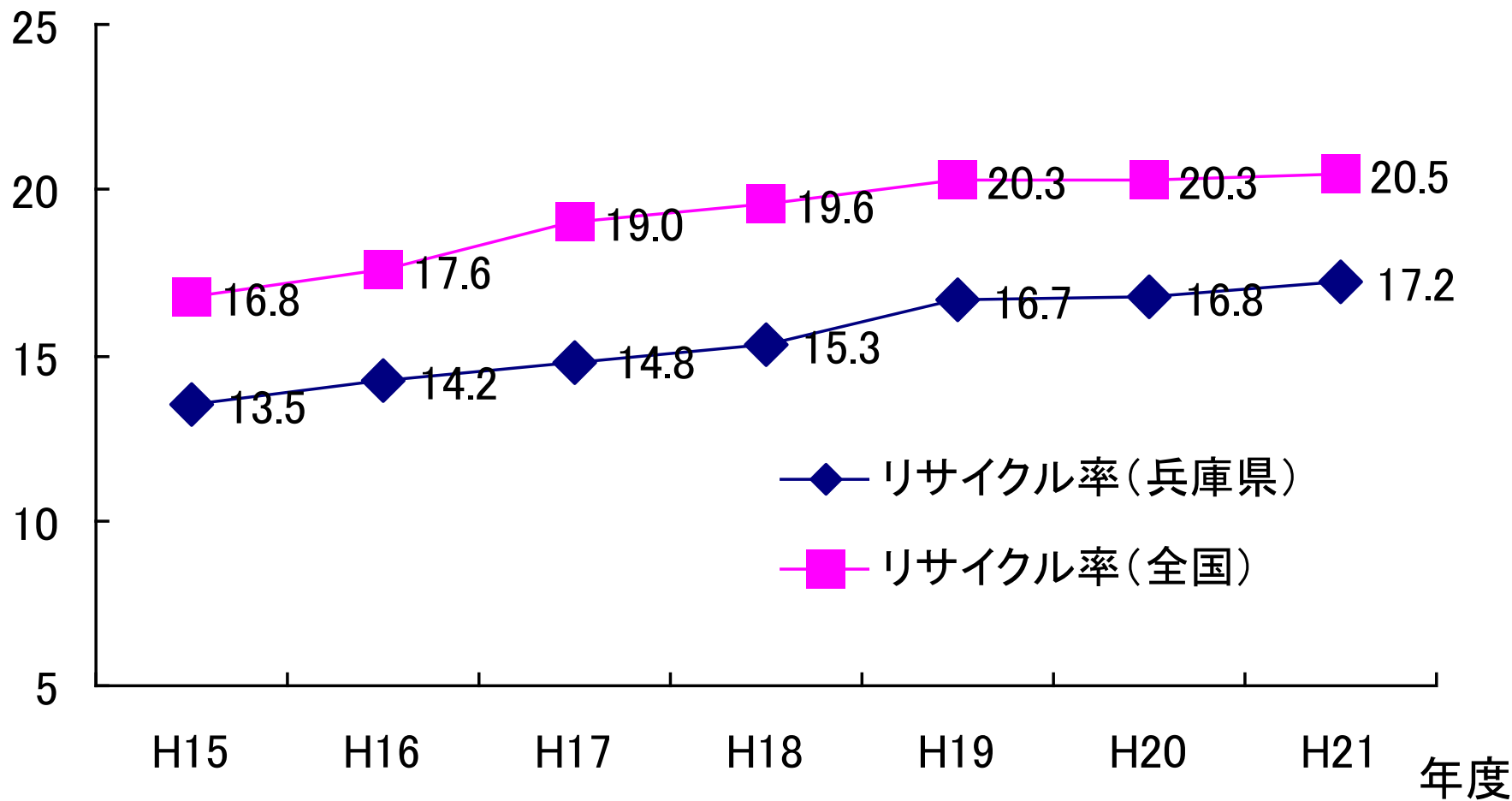
ごみ排出量(1人1日あたりの排出量)の少ない市町

人口10万人未満	人口10万人以上50万人未満	人口50万人以上
1 野迫川村 (奈良県) 211.9 g	1 小金井市 (東京都) 689.0g	1 松山市 (愛媛県) 850.9g
2 神山町 (徳島県) 250.8 g	2 うるま市 (沖縄県) 714.3g	2 八王子市 (東京都) 863.6g
3 飯館村 (福島県) 269.7 g	3 佐久市 (長崎県) 723.3g	3 広島市 (広島市) 869.7g

兵庫県

1 多可町 610g 2 神河町 687g 3 宍粟市 698g

リサイクル率(総資源化量/ごみ総排出量)の推移



リサイクル率の高い市町

人口10万人未満	人口10万人以上50万人未満	人口50万人以上
1 大崎町（鹿児島県） 80.2%	1 倉敷市（岡山県） 47.8%	1 北九州市（福岡県） 29.0%
2 志布志市（鹿児島県） 75.4%	2 鎌倉市（神奈川県） 46.6%	2 千葉市（千葉県） 28.8%
3 築北村（長野県） 68.4%	3 調布市（東京都） 46.3%	3 新潟市（新潟県） 27.5%

兵庫県

1 新温泉町 32.0% 2 宝塚市 30.1% 3 多可町 28.2%

計画推進のための施策

- (1) 廃棄物発生抑制及びリサイクルのための施策
 - ①「もったいない」の精神を活かした廃棄物の排出抑制対策
 - ②廃棄物の資源化・再生利用の推進
- (2) 廃棄物の適正処理推進のための施策
 - ①廃棄物の適正処理施設の確保
 - ②アスベスト廃棄物の適正処理の推進
 - ③不適正処理の未然防止と不法行為に対する厳格な対応
 - ④公共関与による適正処理の推進
 - ⑤PCB廃棄物の適正処理

ごみ処理施設等の整備状況

1 ごみ焼却・溶融施設

- ・施設数 46施設
- ・処理能力 9,371トン/日
- ・余熱利用を行う施設 43施設
- ・発電設備を有する施設 18施設
- ・総発電能力 95,225kw



2 ごみ燃料化施設

- ・施設数 2施設
- ・処理能力 57トン/日

3 粗大ごみ処理施設(破碎施設等)

- ・施設数 27施設
- ・処理能力 1,629トン/日

ごみ処理事業経費

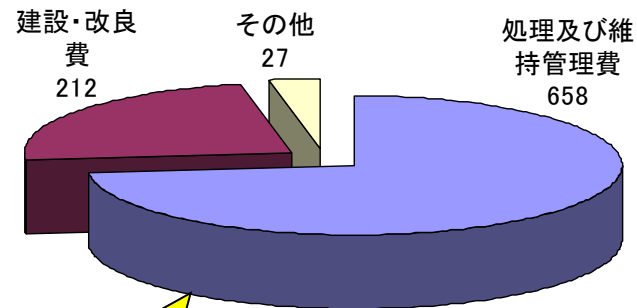
・平成21年度 897億円(前年度 837億円)

うち

処理及び維持管理費 658億円

建設改良費 212億円

その他 27億円



ごみ1t当たり処理経費

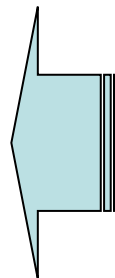


34,547円

人口1人当たり処理経費



11,733円/年



人件費 294億円

処理費 159億円

委託費等 195億円

車両購入費等 10億円

生活系ごみの有料化の状況

1 全国の状況

2009年7月1日現在

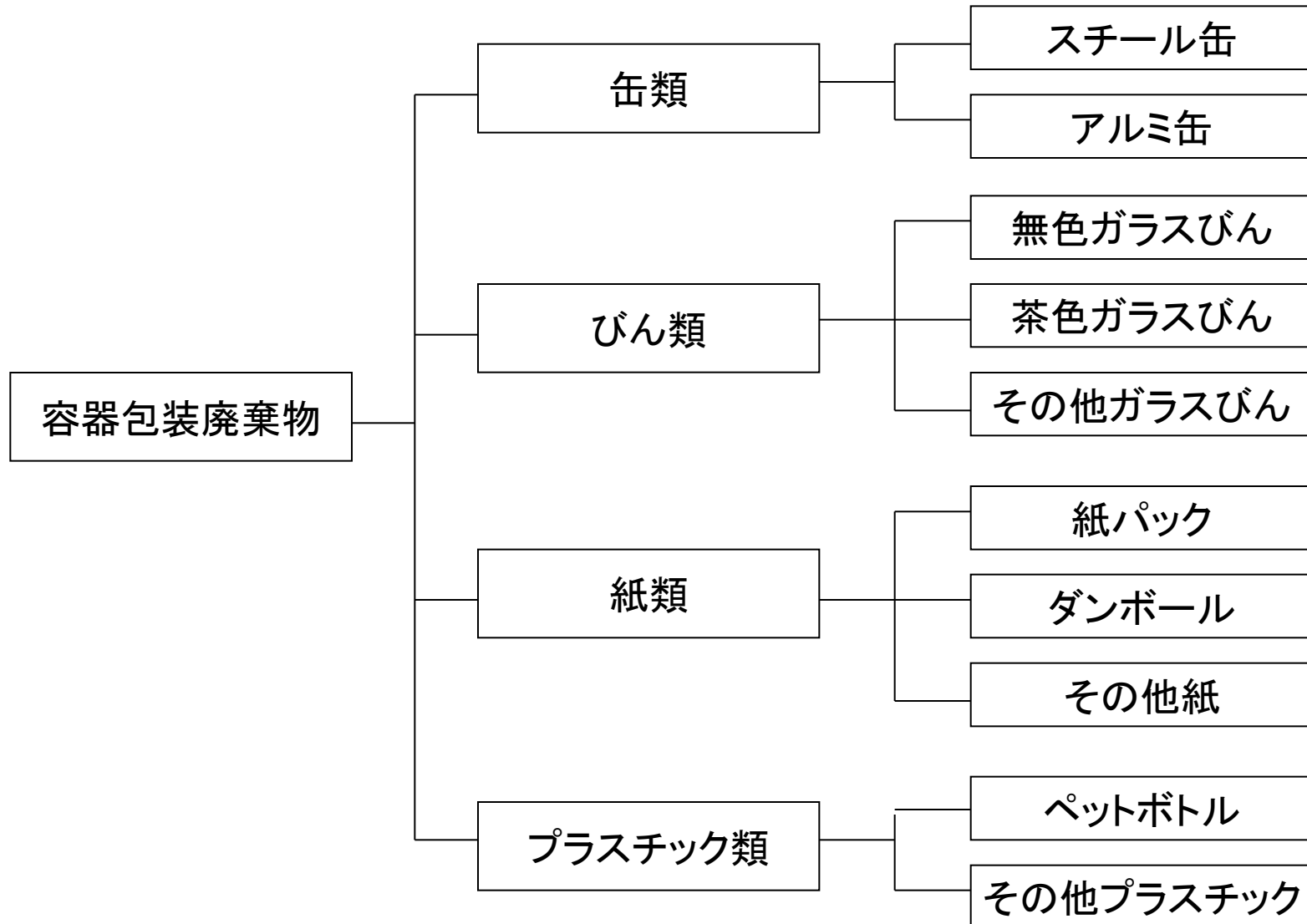
	総数	有料化数	有料化率
市区	806	418	51.9%
町	801	520	64.9%
村	191	120	62.8%
計	1,798	1,058	58.8%

2 兵庫県の状況

2010年3月31日現在

	総数	有料化数	有料化率
市	29	13	44.8%
町	12	5	41.7%
計	41	18	43.9%

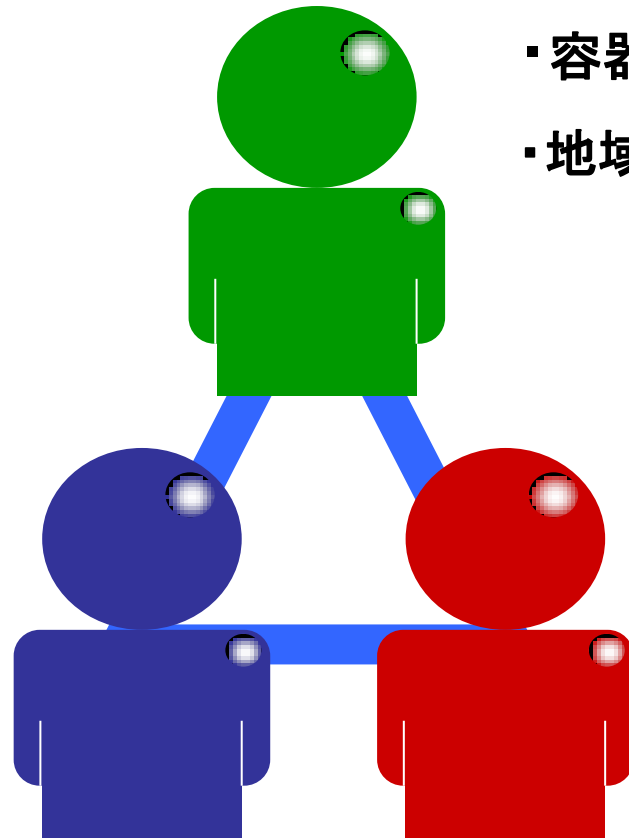
容器包装廃棄物のリサイクル



容器包装リサイクル法による役割分担

消費者

- ・容器包装廃棄物の排出抑制
- ・地域のルールにそって分別排出



市・町

- ・容器包装廃棄物の分別収集

事業者

- ・利用または製造した容器包装の量の抑制
- ・量に応じたリサイクルの義務

EPR(拡大生産者責任)を初めて導入

識別表示

目的 消費者の分別排出を容易にし、市町村の分別収集を促進させる。(資源有効利用促進法)



飲料用アルミ缶



ペットボトル



飲料用スチール缶

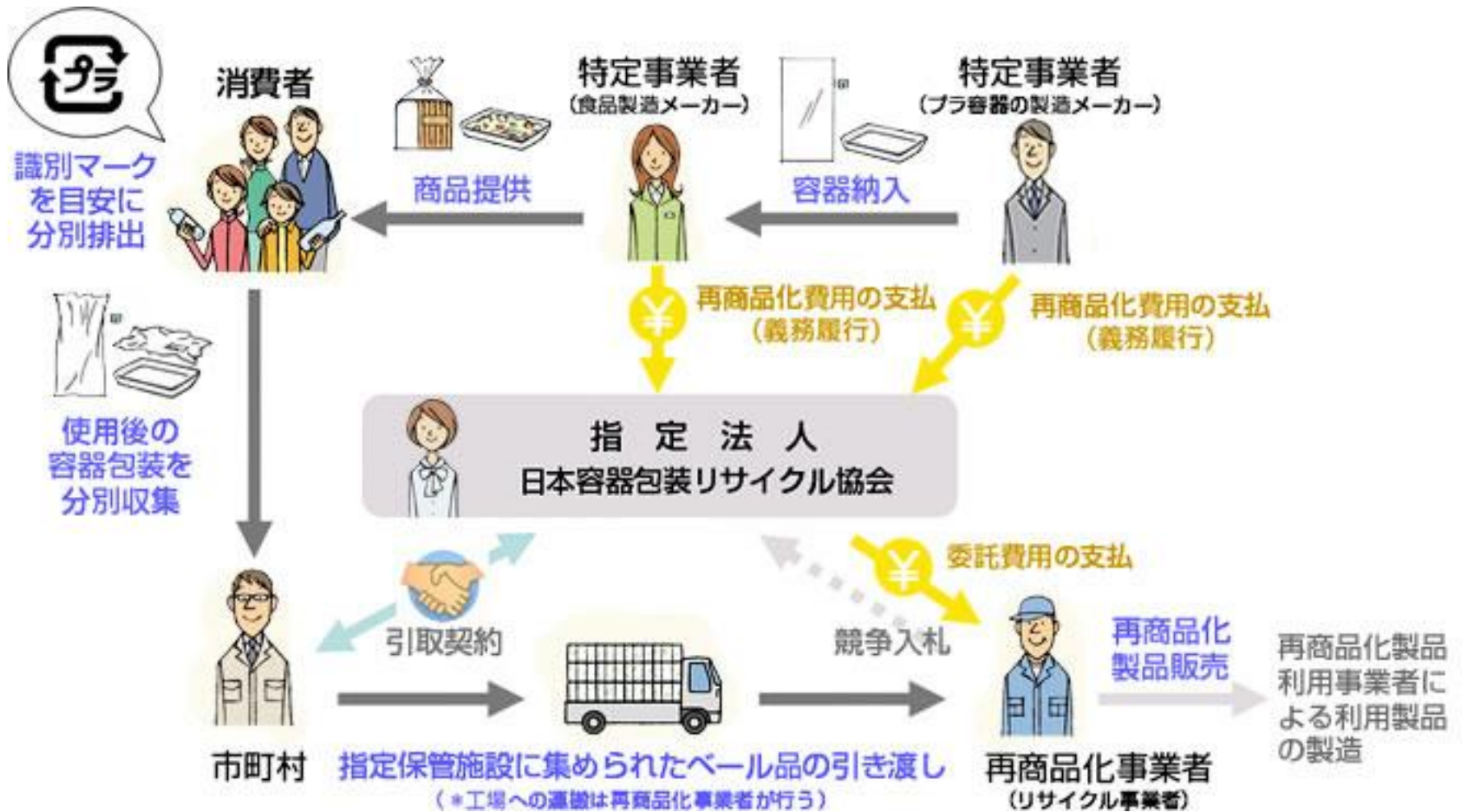


プラスチック製
容器包装



紙製容器包装

指定法人ルートによるリサイクルの流れ



市町の再商品化委託単価

種類	H23 再商品化委託単価 (円/t)	H23 市町負担比率 (%)
ガラスびん(無色)	4, 200	5
ガラスびん(茶色)	5, 600	21
ガラスびん(その他色)	8, 900	10
PETボトル	3, 600	0
紙製容器包装	13, 000	2
プラスチック容器包装	52, 000	1

指定法人の引き取り条件

(1) 分別基準

種類毎の「引き取り品質ガイドライン」

例) ガラスびん

- ・ 無色・茶色・その他の色の3区分に色分けされていること。
- ・ 異物の混入がないこと。

(2) 引き取り単位

10t車1台程度

(3) 指定保管施設

主務大臣の指定が必要

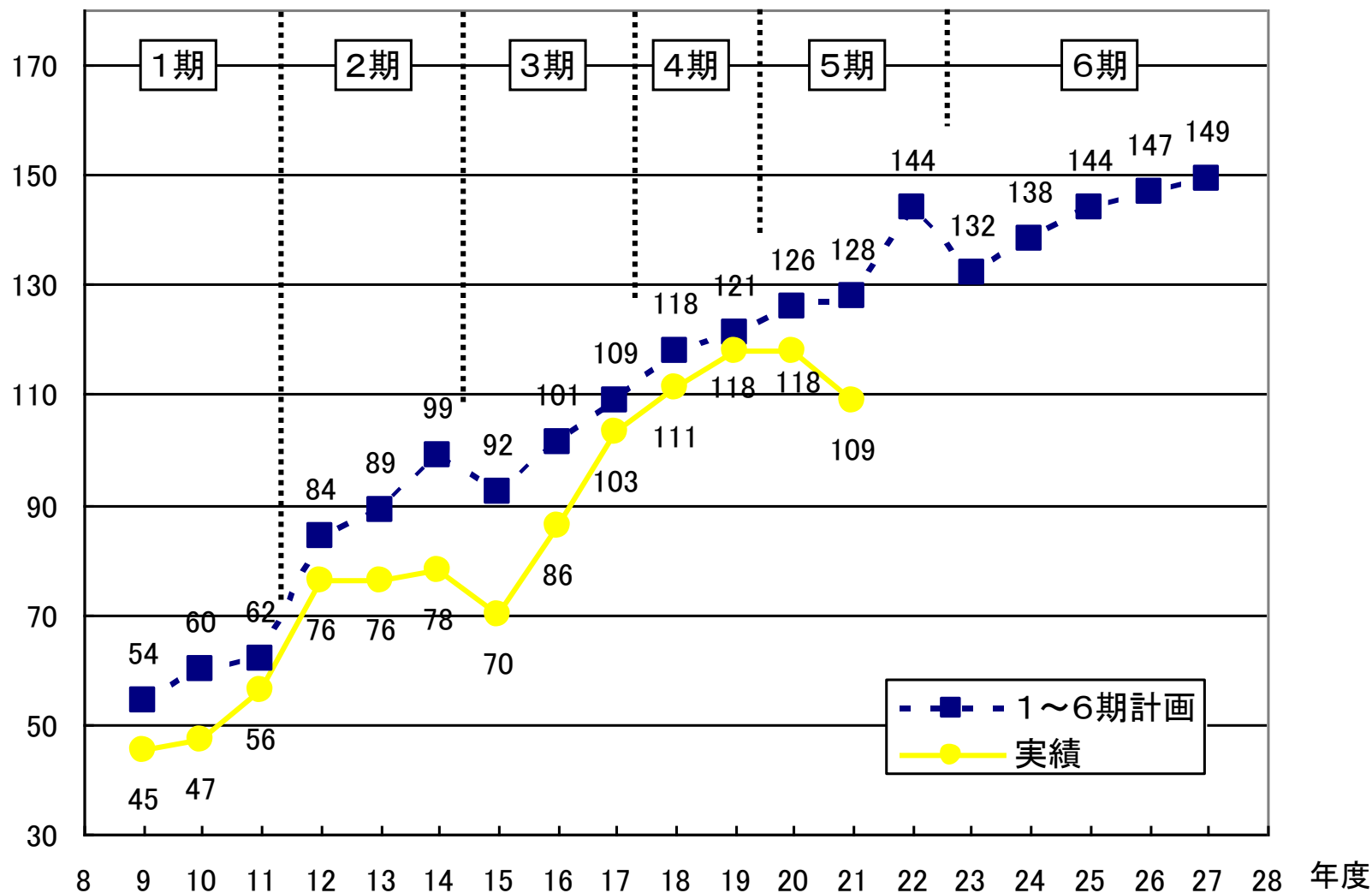
分別収集に取り組む市町の割合

種類	無色ガラス製容器	茶色ガラス製容器	その他色ガラス製容器	紙製容器包装	PETボトル	プラスチック製容器包装	スチール製容器	アルミ製容器	段ボール	飲料用紙製容器
分別収集実施率(全国)	95.7%	95.8%	95.3%	35.8%	98.1%	72.7%	98.9%	98.9%	90.0%	77.2%
分別収集実施率(兵庫県)	100%	100%	97.6%	70.7%	97.6%	85.4%	100%	100%	100%	92.7%

容器包装廃棄物の分別収集量

分別収集量
(千t/年)

容器包装廃棄物の分別収集量の推移



分別収集計画の進捗状況と今後方策

評価

- ・平成12年度から21年度で分別収集量は1.4倍に増加したが、計画量を下回っている。

要因

- ・「その他プラスチック」や「その他紙製容器」の分別収集が進んでいない。
- ・分別収集過程でのロスの発生（ガラスびん）
- ・容器種別の変化（ガラス → PET）

使用済携帯電話の回収の取組

- 1 携帯電話に含まれるレアメタル
金、銀、銅、パラジウム、その他多種多様
- 2 事業者による回収取組(H13.4～)
モバイル・リサイクル・ネットワーク(MRN)

サービス提供事業者、製造メーカーに関係なく、使用済携帯電話・PHSの本体、電池、充電器を全国約8,700店舗ある専売店を中心に、自主的に回収



モバイル・リサイクル・ネットワーク

携帯電話・PHSのリサイクルにご協力を。

MRNによる取組と実績

		12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
本体	回収台数(万台)	1,362	1,311	1,137	1,172	853	744	662	644	617	692
	回収重量(t)	819	799	746	821	677	622	558	544	533	602
電池	回収台数(万台)	1,185	1,179	973	1,025	731	658	613	720	839	919
	回収重量(t)	304	264	193	187	159	132	125	145	167	191
充電器	回収台数(万台)	313	423	336	439	318	359	348	371	478	626
	回収重量(t)	328	361	251	319	288	259	234	250	355	467

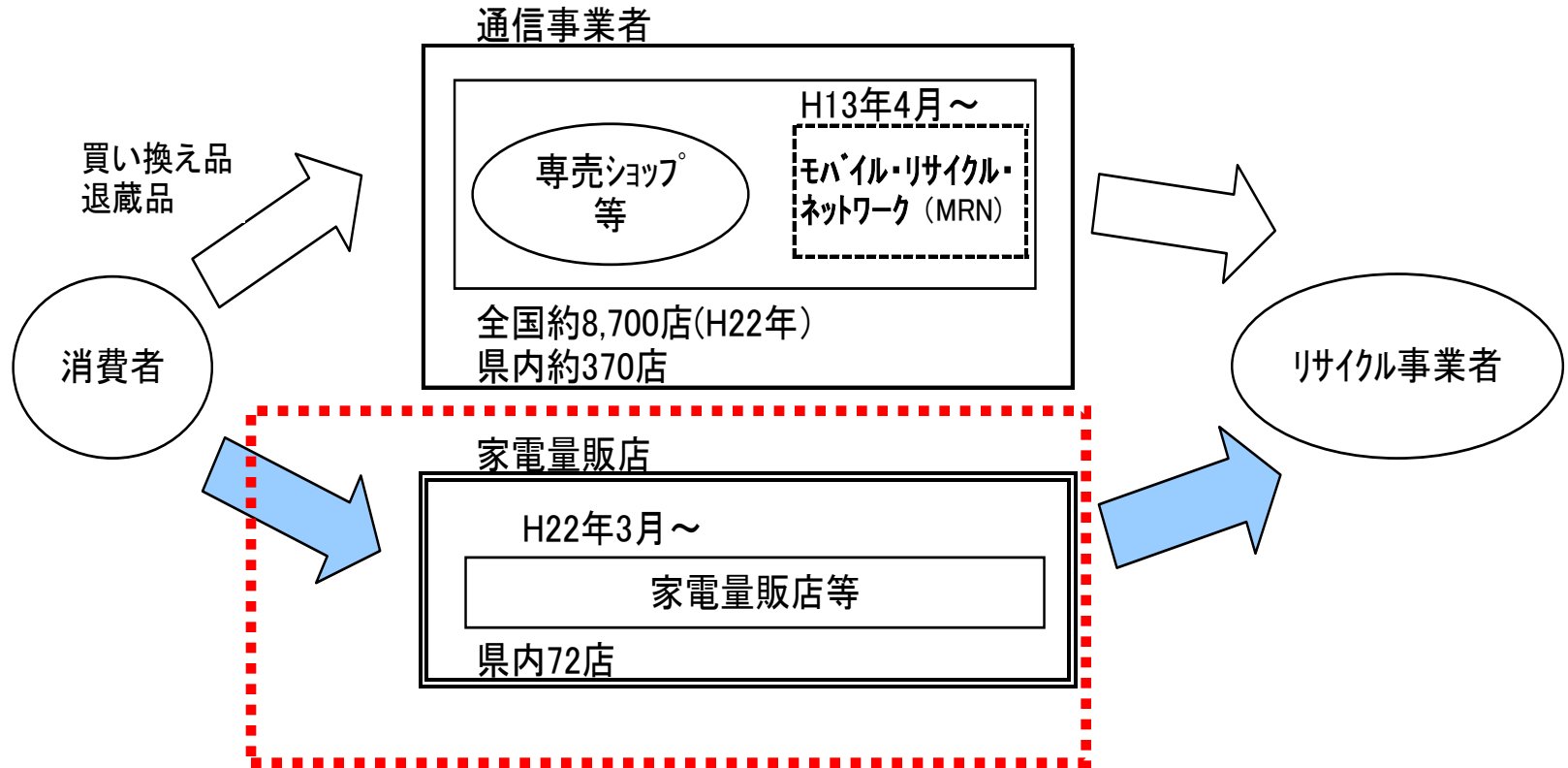
出典：社団法人電気通信事業者協会（TCA）：プレスリリース

回収量減少の理由

①端末の多機能化・高機能化

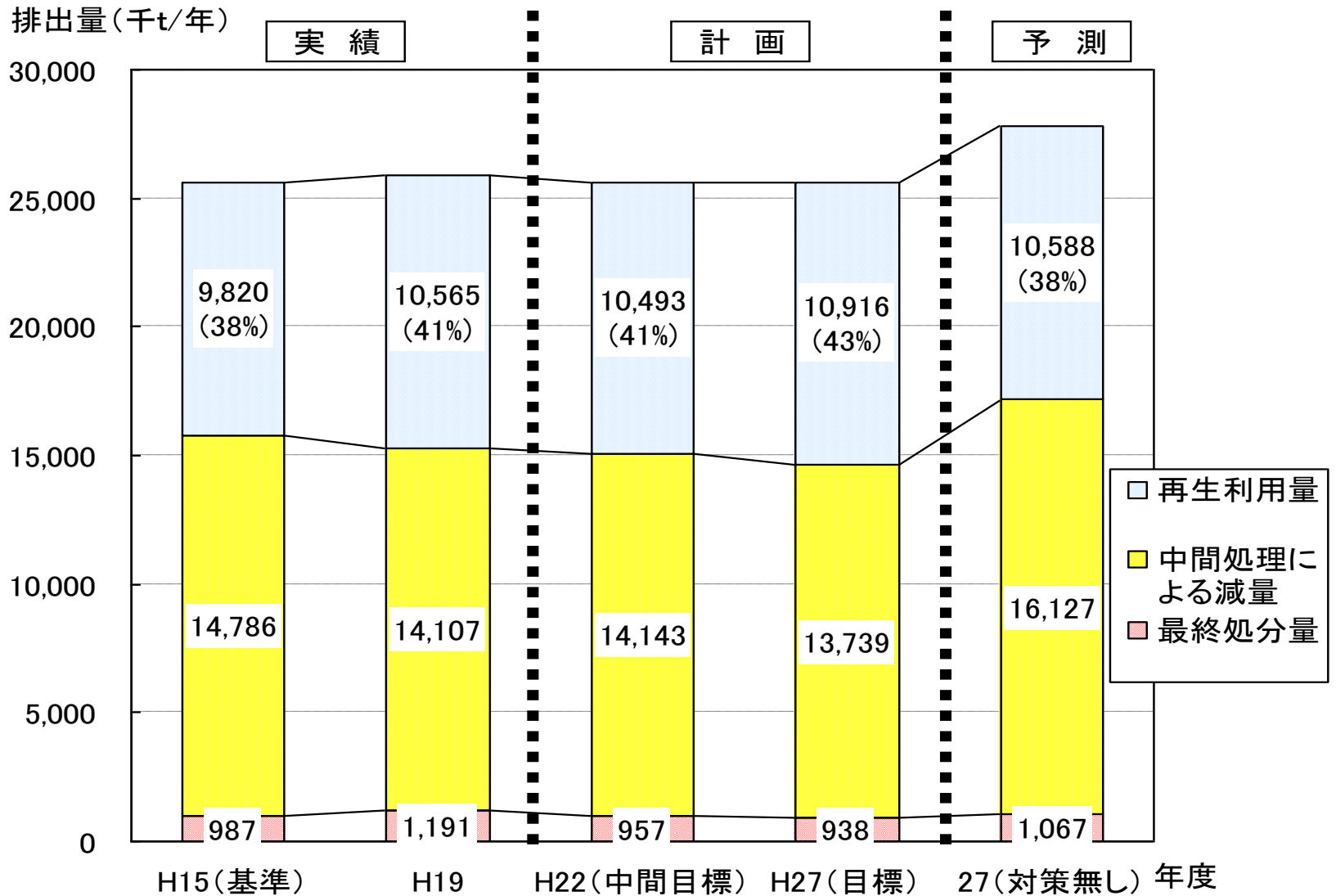
②通信機器として使わなくなった携帯を別の用途で手元に
保管し続ける利用者の増加

兵庫県による取組

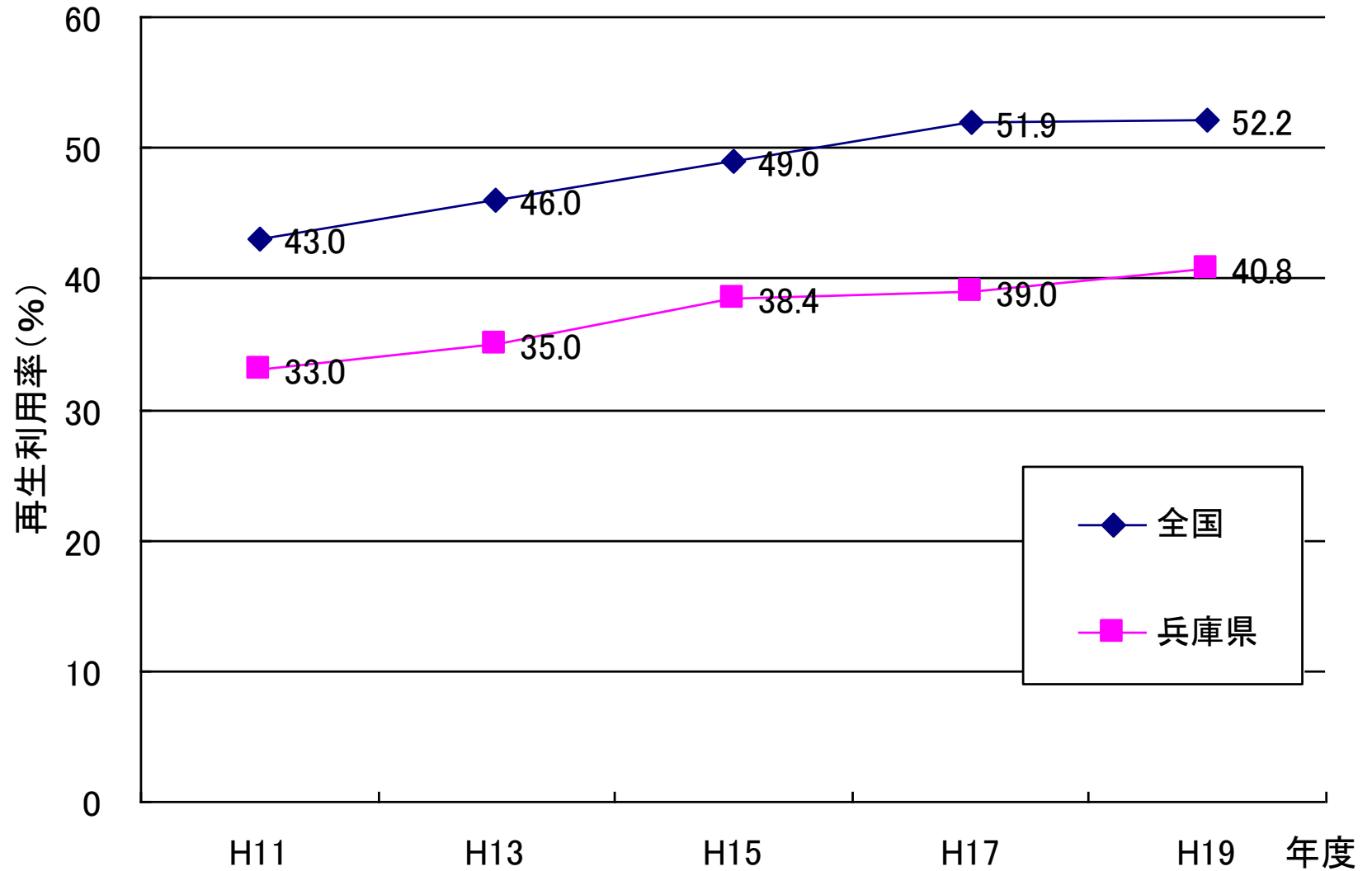


- ・回収拠点の拡大
- ・消費者の利便性にあった回収システムの構築

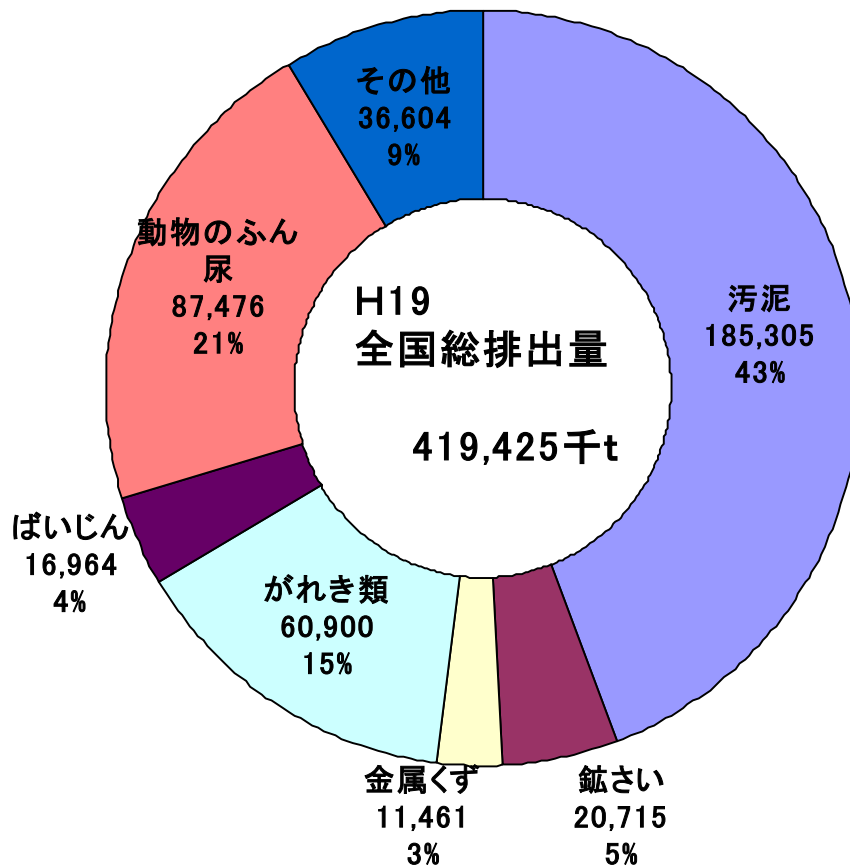
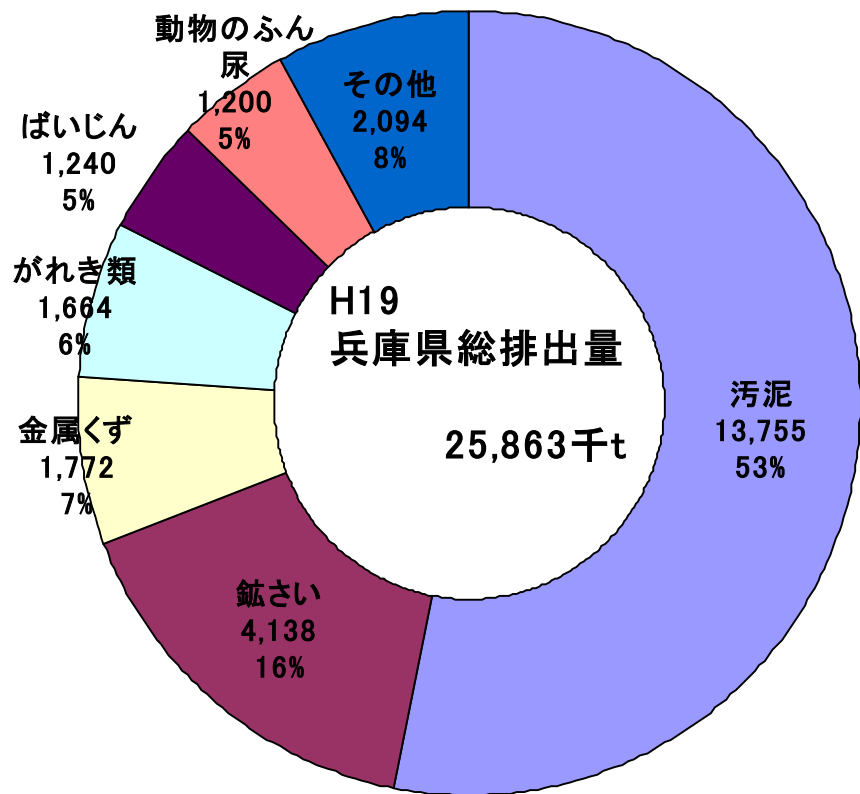
産業廃棄物排出量(県全域)



産業廃棄物の再生利用率の推移



産業廃棄物の種類別発生量



兵庫県 の 汚泥 の 業種別 発生量

